

報告事項サ

平成25年度鳥取県社会教育振興大会兼鳥取県社会教育委員研修会  
の結果について

平成25年度鳥取県社会教育振興大会兼鳥取県社会教育委員研修会の結果につ  
いて、別紙の通り報告します。

平成25年11月18日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 平成25年度鳥取県社会教育振興大会兼鳥取県社会教育委員研修会の結果について

家庭・地域教育課

## 1 概要

### (1) 趣旨

全県の社会教育委員をはじめ、社会教育関係者が一堂に会し、地域づくりや人づくりに向けた生涯学習・社会教育活動の今後のあり方について考え、本県における社会教育の充実に資することを目的として開催した。

(2) 日時 平成25年10月29日(火) 10:00～16:10

(3) 会場 米子コンベンションセンター

(4) 主催 鳥取県社会教育協議会

(5) 共催 鳥取県社会教育委員連絡協議会、鳥取県公民館連合会

(6) 後援 鳥取県教育委員会

(7) 参加者 社会教育関係者等 252名(昨年度167名)

### (8) 内容

#### 【講演】

演題 「社会に参画し、『健康寿命』を延ばすー高齢者の生き方を問い直す」

講師 生涯学習・社会システム研究者(元福岡教育大学教授) 三浦 清一郎 氏

#### 【市町村実践発表】

市町村の取組を10の実践発表と9の資料掲示に分け行った。実践発表を行う市町村が分科会の協議題を設定し、取組を発表し、研究協議を行った。(別紙参照)

## 2 大会の成果

- ・講演では、「健康寿命(男性70.42歳 女性73.62歳)」を延ばし、平均寿命(男性79.64歳 女性86.39歳)との差を縮めなければ、近い将来、国家財政は破綻し、若い世代の老後も崩壊してしまうこと、「健康寿命」を延ばすには、高齢者が地域活動(ボランティア活動)を通じて、社会とのつながりを持ち続けることが必要であること、社会教育が「社会貢献を行っている人々」や「社会を支える活動」に光を当て、「生き甲斐」「連帯」を生み出していかなければならないこと等について学んだ。
- ・社会教育委員を対象とした特別の研修を初めて行い、会場いっぱいの参加者があった。社会教育委員が果たすべき役割や、社会教育委員の活動により地域が活性化した例などを学ぶことができた。
- ・実践発表では、全市町村がその地域ならではの特色ある取組について発表と資料掲示に分かれて行い、お互いに学びあった。
- ・閉会行事で、大会宣言を採択し、各地域そして県全体の社会教育推進の機運を高め、一層の充実に資するための取組の方向性について共通認識を図った。(大会宣言参照)



<講演>



<実践発表>

## ＜市町村実践発表＞

第1会場 【小ホール】	第2会場 【第2会議室】	第3会場 【第3会議室】
<b>＜ 1 2 : 4 5 ~ 1 3 : 2 5 ＞</b>		
<b>【八頭町】</b> 「地域の宝“50m公認プール”を利用した祭りについて」	<b>【社会教育委員向けの特別研修】</b> 「社会教育委員の心得」 ～果たすべき職務について～	<b>【伯耆町】</b> 「町民みんなで子どもたちを育てる学校支援活動」～誰でも参加できる学校支援活動を推進～
<b>【発表者】</b> 西村昭二（隼地区公民館長）	<b>【指導者】</b> 三浦 清一郎 氏 （生涯学習・社会システム研究者）	<b>【発表者】</b> 福田明真（地域コーディネーター） 米田述史（日光小学校支援コーディネーター）
<b>【発表内容】</b> ①隼プールの歴史 ②隼地区公民館と隼水泳協会 ③44回目のプール祭り ④プールを中心とした住民の思い	<b>【研修内容】</b> ・社会教育委員とは？ ・社会教育委員が果たすべき役割とは？ ・社会教育委員の活動により、社会教育や地域づくりが推進されている実例 等	<b>【発表内容】</b> 地域の大人が学校の教育活動に関わることで、学校に対する理解度が高まり、地域全体で子どもを育てていこうという機運を醸成している。伯耆町学校支援地域本部の取り組み、日光小学校の具体的な活動について発表します。
<b>【協議題】</b> 住民の参画による地域づくりと魅力ある公民館事業のあり方	<b>【協議題】</b> 社会教育委員が社会教育行政に、どう関わっていくべきか	<b>【協議題】</b> 学校、公民館、地域との連携について
<b>＜ 1 3 : 3 5 ~ 1 4 : 1 5 ＞</b>		
<b>【境港市】</b> 「結婚へのきっかけづくり♥婚活大作戦♥」	<b>【琴浦町】</b> 「みんないかいや まなタン祭り」	<b>【智頭町】</b> 「智頭町も青少年育成がんばとるで！」
<b>【発表者】</b> 佐藤寿美子（境公民館運営審議会） 松本 彰（境公民館運営審議会）	<b>【発表者】</b> 小谷友幸（琴浦町社会教育委員会会長）	<b>【発表者】</b> 藤内洋行（智頭町教育委員会）
<b>【発表内容】</b> 境公民館では、平成23年3月から“独身男女の出会いの場づくり”をしようと公民館講座として婚活講座を企画しました。今までに行った7回の婚活の歩みを発表します。	<b>【発表内容】</b> 琴浦町生涯学習センター開館15周年記念事業を行うのにあたり、実行委員会を社会教育委員を中心に組織、大会運営にあたりました。実行委員さんたちの素敵なアイデアのおかげで2日間で約6,000以上の参加を得ることができています。	<b>【発表内容】</b> 智頭町では智頭町青少年育成推進指導員協議会と委託契約を結びサマーキャンプ、チャレンジ教室などの事業を展開しています。その事業の取り組みを紹介し、参加した子どもたちの様子や事業の成果・課題を発表します。
<b>【協議題】</b> 婚活の企画内容と人集めについて	<b>【協議題】</b> 社会教育委員活動の活性化について	<b>【協議題】</b> 子どもたちに「参加したい！」と思わせる工夫について

**< 14 : 25 ~ 15 : 05 >**

<p><b>【若桜町】</b> 「若桜町の社会教育（公民館活動）」</p>	<p><b>【北栄町】</b> 「子どもたちをサポートする地域の取組」 ～地域づくりをめざして～</p>	<p><b>【日野町】</b> 「日野川下り（ラフティング）」 ～子ども達に自然体験の場を～</p>
<p><b>【発表者】</b> 伊井野孝一（若桜公民館長）</p>	<p><b>【発表者】</b> 竹信純一（下種自治会長） 横山浩一（下種ふるさと保全会副代表）</p>	<p><b>【発表者】</b> 稲田いずみ（日野町教育委員会）</p>
<p><b>【発表内容】</b> 若桜町公民館では、全ての世代を対象に各種学級・講座等を実施するとともに、各種サークル活動の活性化支援に取り組んでいます。特に子ども達や高齢者を対象とした事業に力点を置いて実施しており、その状況を紹介します。</p>	<p><b>【発表内容】</b> 地域が行う事業に子どもたちを巻き込みながら、心豊かな子どもを育て地域に誇りを感じてほしいと願っている。地域で実施してきた事業を紹介しながら成果と課題を発表します。</p>	<p><b>【発表内容】</b> 日野川でのラフティングを通して、仲間との協力や自分への挑戦を体験！実施の主体である総合型地域スポーツクラブの紹介と参加者の成長、関わる地域の変化等について発表します。</p>
<p><b>【協議題】</b> 今後の社会教育（公民館）のあり方について</p>	<p><b>【協議題】</b> 地域の教育力向上のための住民の関わりと、活動の継続について</p>	<p><b>【協議題】</b> スポーツを通じた地域の教育力の向上について</p>

**< 15 : 15 ~ 15 : 55 >**

<p><b>【倉吉市】</b> 「倉吉市公民館のこれまでとこれから」</p>	<p><b>【船上山少年自然の家】</b> 「キッズアドベンチャー」 ～古代ロマンと伝説を巡る旅仲間と歩む熱い夏～</p>	<p><b>【日吉津村】</b> 「みんなで地域を盛り上げたい！！」～わかいもんで、地域を元気に！～</p>
<p><b>【発表者】</b> 松下彰秀（倉吉市教育委員会）</p>	<p><b>【発表者】</b> 中本祐二（船上山少年自然の家）</p>	<p><b>【発表者】</b> 山口智久（富吉自治会） 増本唯史（富吉自治会）</p>
<p><b>【発表内容】</b> 倉吉市の公民館の歴史と取組みを紹介するとともに、社会教育の果たす役割から時代に沿った公民館のあり方、役割について考える。</p>	<p><b>【発表内容】</b> リヤカーを引きながら、約60km5泊6日のロードウォーク。子どもたちは、親元を離れ、自ら気づき、考え、決定し、行動するというねらいのもと、衝突や我慢を乗り越え、長期集団宿泊体験ならではの成長を見せてくれました。</p>	<p><b>【発表内容】</b> 富吉自治会では、近年若い人たちが中心となり地域を盛り上げようと、様々な活動に取り組んでいます。「継続してみんなで盛り上げていくには？」どうしたらいいか、みんなで考えていければと思います。</p>
<p><b>【協議題】</b> 社会が公民館に求める役割をとらえ、これからの公民館のあり方を探る</p>	<p><b>【協議題】</b> 青少年の長期集団宿泊体験を推進するにあたっての課題</p>	<p><b>【協議題】</b> 今後の事業展開（継続して活動していくためには）</p>

# 大 会 宣 言

私たち社会教育関係者は、鳥取県及び各市町村の社会教育のさらなる充実をめざし、本日、この地に集い、平成25年度鳥取県社会教育振興大会を開催した。

本大会では、各地域で少子高齢化が急速に進むなか、高齢者が次世代と交流しながら、いきいきと暮らす社会を創るため、それぞれの立場でどのような取組ができるのかを学んだ。また、県内全市町村がそれぞれの特色ある取組を発表し、研究協議を深め、交流する貴重な機会となった。

人間関係の希薄化が指摘される今日において、人との関わりの中に豊かさを感じ、地域に対する誇りや愛情を持ち、地域の良さを次世代に引き継ぐことのできる自立した地域社会を形成していくことが求められている。また、教育・子育て・まちづくり・福祉・介護等の地域課題に対して、住民相互の経験や知識が共有・継続され、新たな創造や工夫が生み出されるサイクルを構築していくことが大切である。

私たちは、社会教育に対する熱い思いと研修・交流で得た成果を活かし、地域の活力・教育力を再生するとともに、各地域、そして県全体の社会教育の一層の充実を図るために、次の事項を共通の認識とする。

- 一 社会教育の振興により、生涯にわたり関わり合い、学び続ける人づくりを推進するとともに、学校・家庭・地域の連携・協働により、社会全体で子どもの育ちを支え、地域の教育力の一層の向上を図る。
- 一 将来の地域を担う子どもの健やかな育成に資するため、家庭教育に関する学習機会や情報の提供のみならず、相談・助言、交流の機会の提供など保護者同士のつながりづくりを積極的に進め、家庭の教育力の向上を図る。
- 一 人づくり・地域づくりを担う拠点である公民館等の充実こそが、住民を元気にし、地域活性化の原動力となることを再認識し、各地域で社会教育・生涯学習を通じたまちづくりを展望しつつ、地域課題に対応した取組や地域の指導者・リーダーの育成に努める。
- 一 地域住民や社会教育関係団体の願いを、社会教育行政に反映させることが社会教育委員の役割であることを再認識し、社会教育の現状や課題の把握に努め、社会教育の推進に向けた施策の提案等委員活動の一層の充実を図る。
- 一 人と人との絆を育む社会教育に携わる者として、各地域そして県全体での研修や情報交換の場に積極的に参加し、社会教育関係者がつながり合い、人的ネットワークを広げていくよう努める。

以上、ここに宣言する。

平成25年10月29日

平成25年度鳥取県社会教育振興大会